

所属・氏名（ 健康科学部 医療経営学科 氏名：原田 雅嗣 ）

著書、学術論文等の名称		単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1	(著作) Masashi Harada/ Mat Maneri Duo, “The Soul with Longing for dim hills and Horizon”	共著	2005 年	Leo Record.London UK	音楽 CD 現代音楽における即興演奏の技法を長期にわたるコラボレーションによって探求し、微分音の可能性を明らかにした。
2	(著書) アイスペインティング	単著	2006 年 6 月	工作舎	原田雅嗣作品集 著書全体の概要:新しい制作概念に基づき、制作した写真・絵画作品を、作品集としてまとめたものではあるが、その概念形成にいたる哲学的思索の奇跡を英文併記で記述した。 (総ページ数: 120 頁) (著書全体の著者名 原田雅嗣)
3	(著作) Masashi Harada/ Malcolm Goldstein Duo, “Soil”	共著	2007 年	Emanem Disk, London, UK	音楽 CD 現代音楽におけるバイオリン演奏法の極限を模索するマルコム・ゴールドシュタイン氏との共作。 ボストン録音
4	(著作) Cecil Taylor “Dance Project”.	共著	2008 年	FMP production. Berlin	音楽 CD ジャズ前衛の旗手、フリージャズの創始者セシル・テイラーのトリオの一員としての演奏。 ベルリン録音
5	(著作) Cecil Taylor “Concrete”	共著	2008 年	FMP production. Berlin	音楽 CD 上記セシル・テイラーのアルバムで共演。
6	(著作) Masashi Harada/Joe Maneri Duo, “Pinerskol”	共著	2009 年	Leo Record. London UK	音楽 CD ジャズ及び現代音楽改革者の一人で、恩師でもあるジョー・マネリとのデュオ作品。 ジョー・マネリの遺作となる。
7	(著作) Masashi Harada Trio “Breath, Gesture. Abstract Opera”	単著	2010 年	Leo Record. London UK	音楽 CD 息と、身体の動きに注目した、抽象的、実験的オペラ。
8	(学術論文). 認知症リハビリテーションにおけるPET-CTによる楽器演奏時の脳代謝評価 第一報:健常者における検討	単著	2013 年	日本認知症予防学会	FDG-PETを用い、楽器演奏時の脳代謝の解析を行い、脳内の各部位での代謝亢進をPETの画像診断において抽出し、音楽演奏が単に機械的な操作であるのではなく、各種感覚情報の統合により緻密かつ繊細な手技を要求されるものであることが、画像診断において抽出可能であった。この研究は音楽療法、特に認知症の予防及び治療、リハビリテーションなどにおいての可能性を探る基礎研究として健常者、特にプロの音楽家を対象に行った。
10	(学術論文) アルツハイマー型認知症患者に対する音楽療法 第二報 ハンドベル演奏による認知・高次脳機能改善効果の検討	単著	2015 年	日本認知症予防学会誌	アルツハイマー型認知症患者14名を対象に非薬物療法としてハンドベルの演奏練習を行い、開始前、1, 2, 3ヶ月後にリハビリの一環として各種テスト(FAST, MMSE, RCPM, TMT, FAB, CAT, SDMT, NPI, GDS 等)を行いハンドベルを用いた音楽療法は注意障害の改善、BPSD, 抑うつ状態の改善に有効であり、患者のADLの向上の一助となる可能性が示唆された。